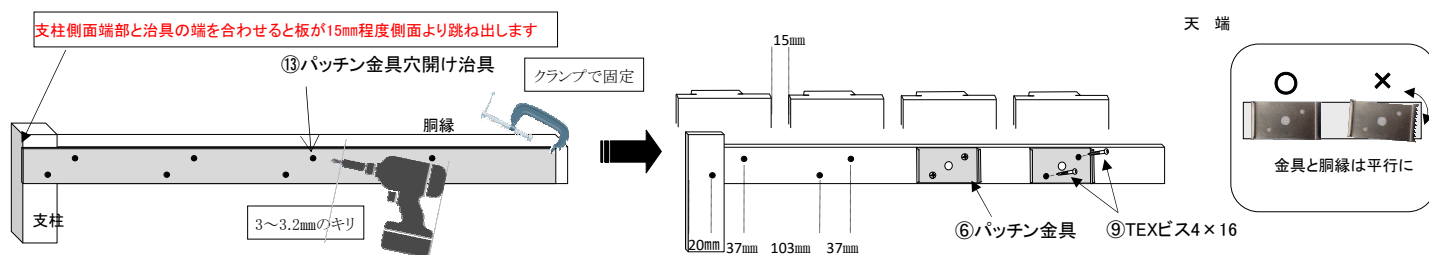


●部材表 (支柱の種別により使用部材が異なります)

番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125 × 15 L=2000(2050) 125 × 15 L=3000(3050)
②		支柱アルミ 角材各種	アルミ角40 × 40t2: 支柱用 アルミ角70 × 70t2: 支柱用 アルミ角30 × 70t2: 胴縁用 アルミ角20 × 40t2: 胴縁用
③		アルミ支柱用キャップ 各種 ビス付き	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20 × 40用
④		C型ジョイント	35 × 35 × 30t2*胴縁接続用 45 × 45 × 40t2*胴縁接続用
⑤		横棧補強アルミ連結 スペーサー	35 × 13 × L=200 *20 × 40胴縁連結用
⑥		パッチン留め金具40 標準	75 × 40 × t0.5 *フェンス用金具
⑦		ルーバー留め金具40	70 × 40 × t0.5 *ルーバー用金具
⑧		胴縁用接続 Lアングル	40 × 40 × t2 *胴縁接続用 40 × 70 × t2 *胴縁接続用
⑨		TEXビス4 × 16	4 × 16(SUS) *金具、C、L、スペーサー用
⑩		カラーTEXビス 4 × 40	4 × 40(SUS) *サイドバー・ 横・縦フェンス板留め用
⑪		カラーTEXビス 4 × 50	4 × 50(SUS) *連結バー・ ルーバー板留め用
⑫		横棧用連結バー 10 × 40	10 × 40 L=2000 *連結部目隠し
⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40 × 1500 × t2
⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40 × 1500 × t2
⑮		サイドバー 30 × 40	30 × 40 L=2000 *端部目隠し
⑯		カラー支柱	角40 × 40t1.2*支柱・胴縁用 角50 × 50t1.6*支柱・胴縁用
⑰		カラーキャップ	カラー支柱用 40角・50角

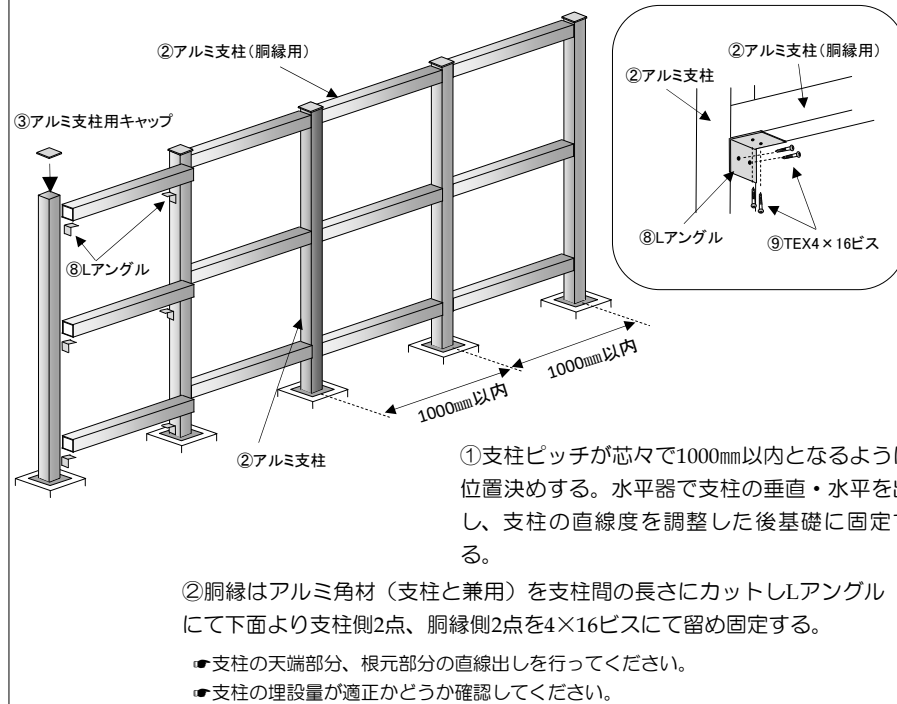
◎パッチン金具の取り付け(寸法: 隙間15mmの場合)



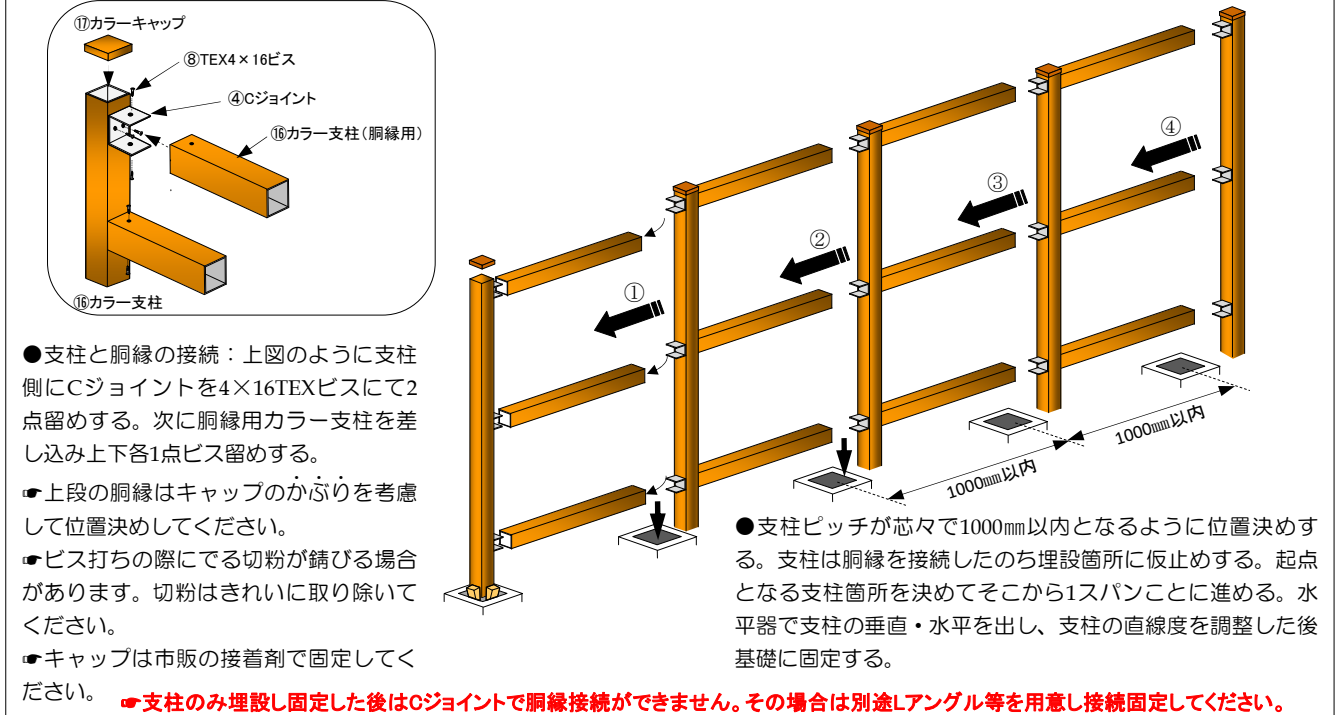
必要な工具: 電動ドライバーなど(ネジ締め、下穴あけ)、丸ノコなどの切断用器具(板のカット、支柱・胴縁のカット)、水平器・水系などの用具、掘削用具(支柱埋設)、クランプ、接着剤、ゴムハンマー

- 縦ルーバータイプ、縦ボードビス留めタイプは施工手順①の後次ページをご確認ください。
- 施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

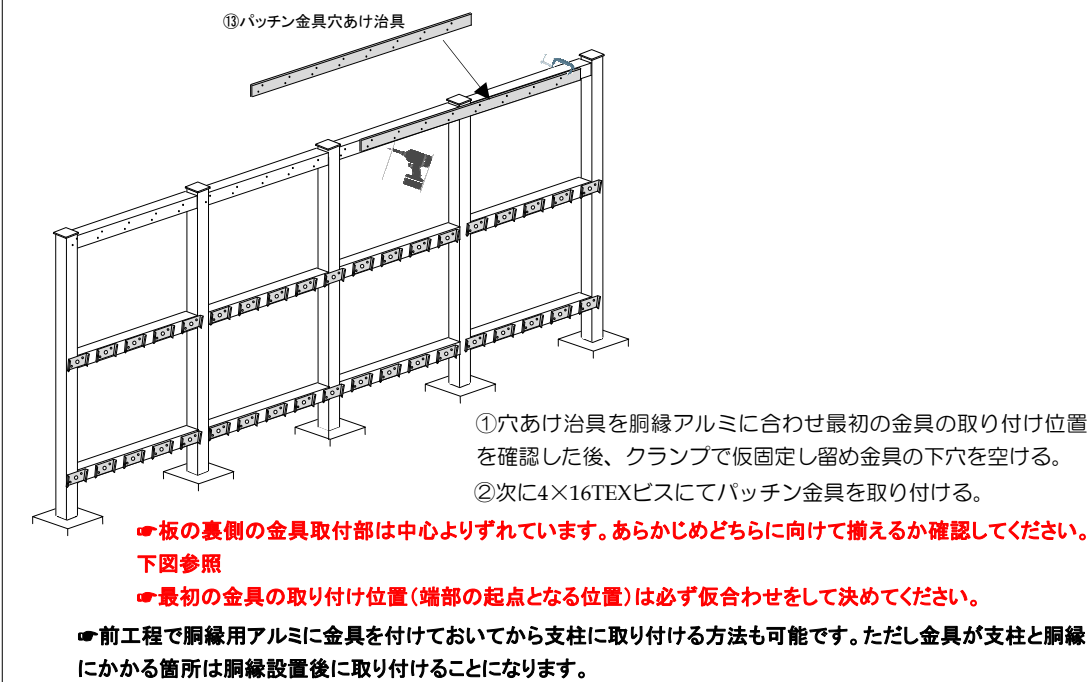
施工手順①-a 支柱と胴縁の設置 (アルミ支柱仕様)



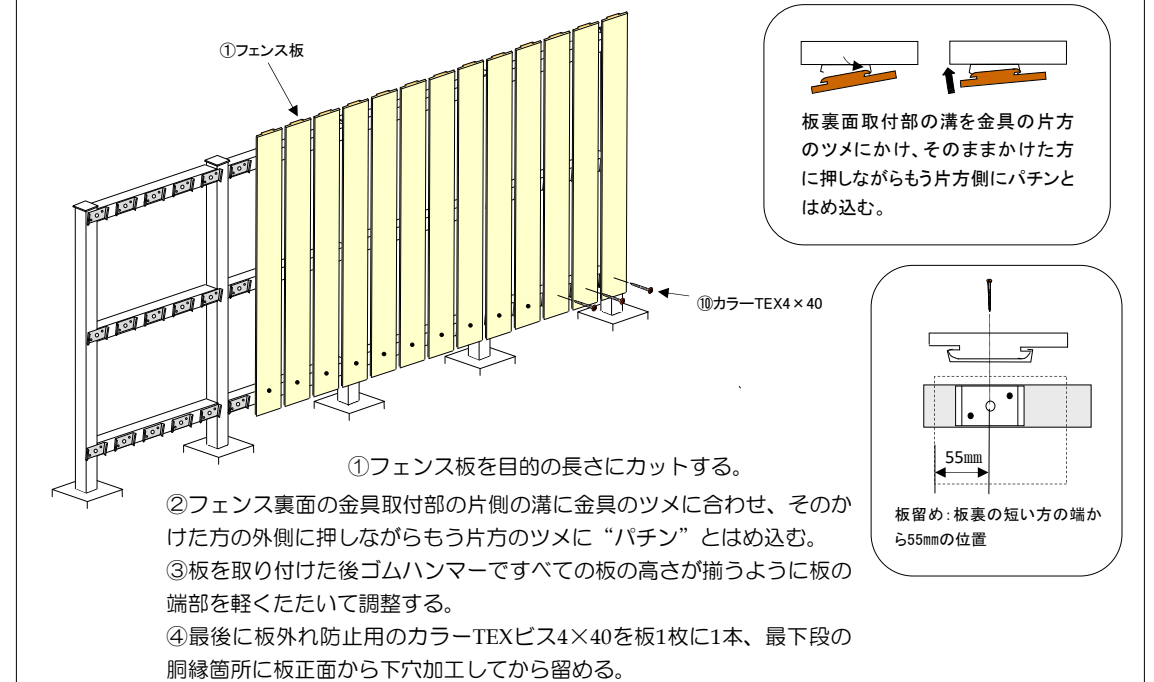
施工手順①-b 支柱と胴縁の設置 (カラー支柱仕様)



施工手順② 金具の取り付け



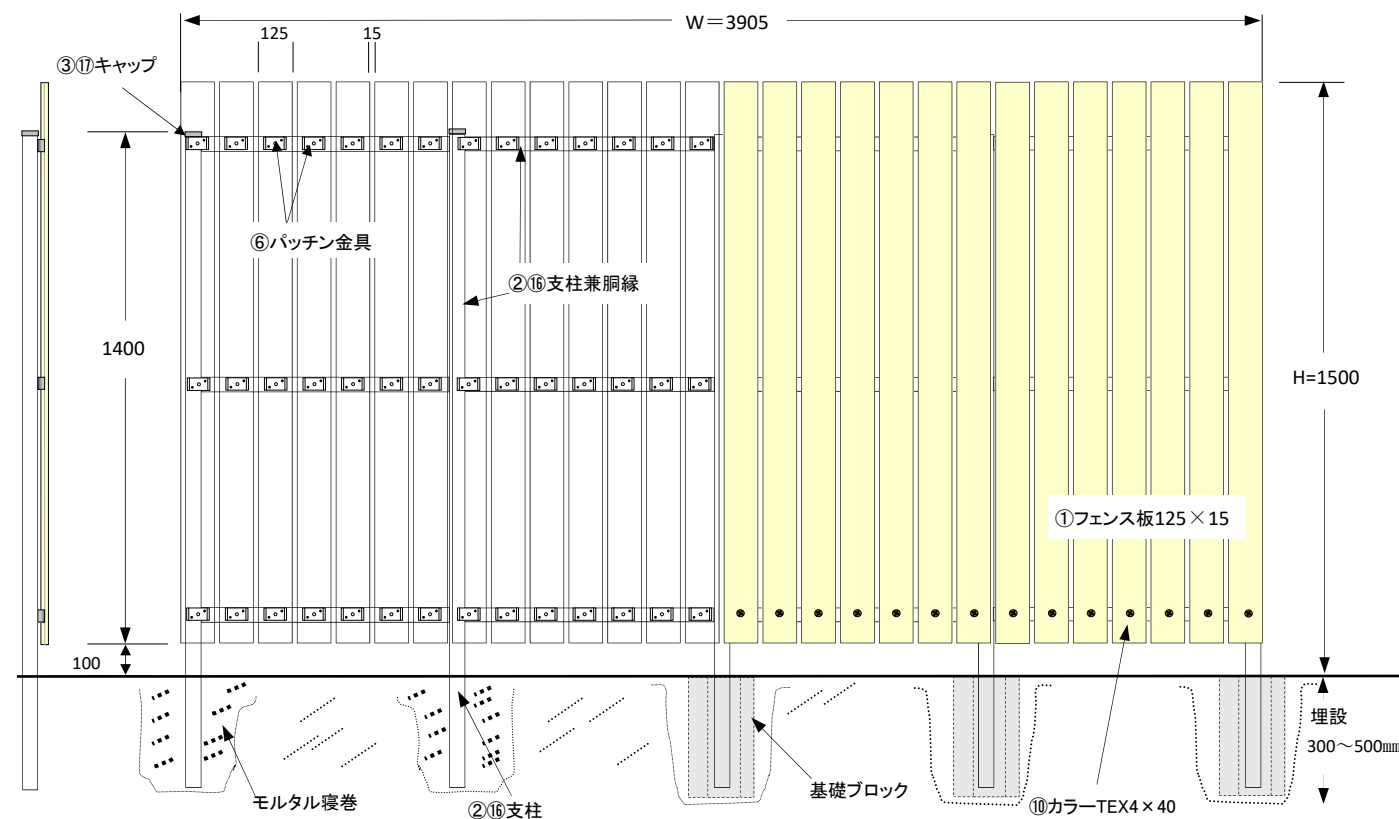
施工手順③ 板の取り付けとビス留め



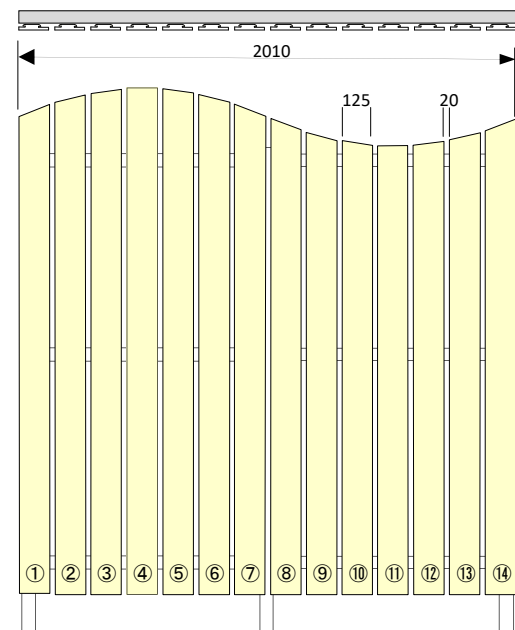
- ①板の裏面の金具取付部は中心よりずれています。板裏が短い方と長い方がありますが、その向きをどちらに揃えて取り付けするか決めてください。左図は短い方が正面から向かって左側に配置しています。
- ②次に金具をどちらから取り付けるか(フェンス1面の左右どちらを起点にするか)決めてください。
- ③左図のように支柱側面とパッチン金具の端を合わせると支柱側面から板の端部が15mmほど跳ね出します。例えば板の端部と支柱側面のツラを合わせたい場合は、治具を支柱より内側にずらすことによりできます。●始まり位置は治具と板+金具を仮合わせをして決めてください。
- ④縦フェンスは横延長方向の収まり寸法は板隙間で調整します。全体の板隙間で調整する場合は治具が使用できませんので注意してください。フェンス一面の左右どちらかの数列で調整する場合はその箇所は治具を使用せず取付位置を決めてください。

WOODY R・P 施工手順 縦フェンスタイプ

参考図面 春・秋期施工 H1500×W=3905(アルミ支柱標準仕様)



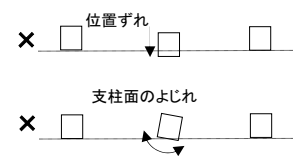
●波形、アーチフェンスについて



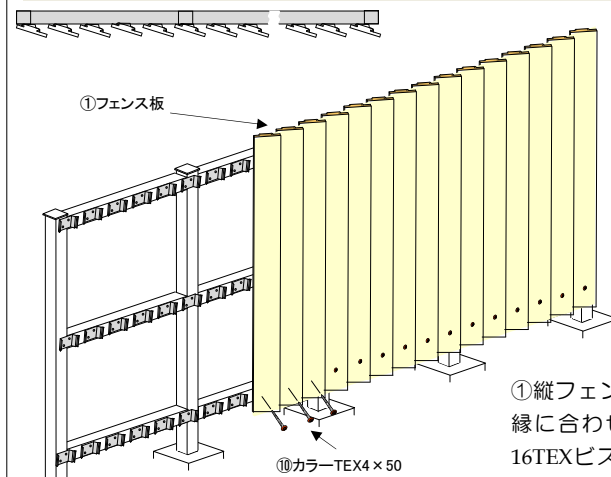
施工手順は縦フェンスと同様です。板上図のように向かって左からの番付をして出荷してあります。板の向きは板裏の短い方が左側に配置してあります。

- 天端の胴縁から板の跳ね出しが長くないように胴縁の位置決めをしてください。
- 既定の波形は14列で1サイクル、アーチ大は14列、アーチ小は7列で1サイクルとなります。隙間は20mm、高低差は約230mmです。連続する場合やサイクルの途中で終わる場合もあります。番付をご確認ください。
- 特注のカットも番付してあります。

●重要
支柱の垂直、水平
直線度を出す



施工手順② 金具と板の取り付け、ビス留め 縦ルーバータイプの場合



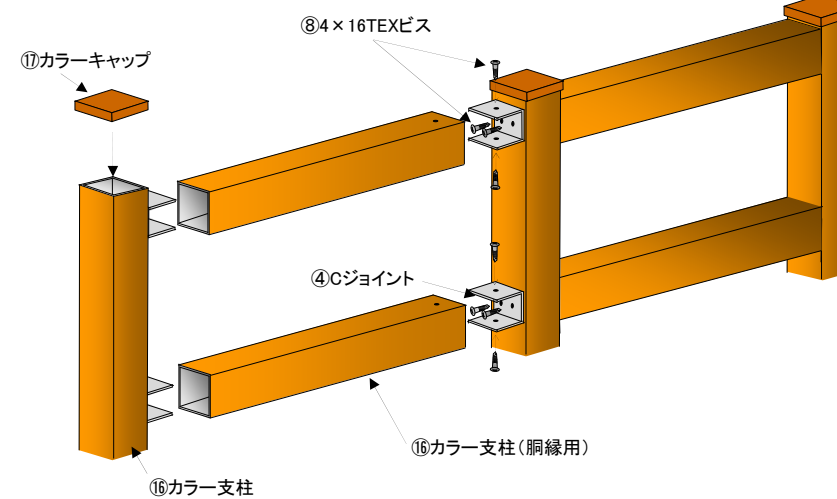
①縦フェンスタイプと同様、ルーバー金具穴開け治具を胴縁に合わせて下穴を空ける。その後ルーバー金具を4×16TEXビスにて留める。●付け始め位置(端部)は板と金具を仮合わせをして位置決めしてください。

②フェンス板裏面の金具取付部の板裏の短い方の溝に金具の張り出していないほうのツメに合わせ、そのかけた方の外側に押しながら張り出し側のツメに“パチン”とはめ込む。

③板を取り付けた後ゴムハンマーですべての板の高さが揃うように板の端部を軽くたたき調整する。

④最後に板外れ防止用のカラーTEXビス4×50を板1枚に1本、最下段の胴縁箇所に下穴加工してから留める。●留めビスは板、金具、支柱を貫通させるため必ず下穴処理をお願いします。

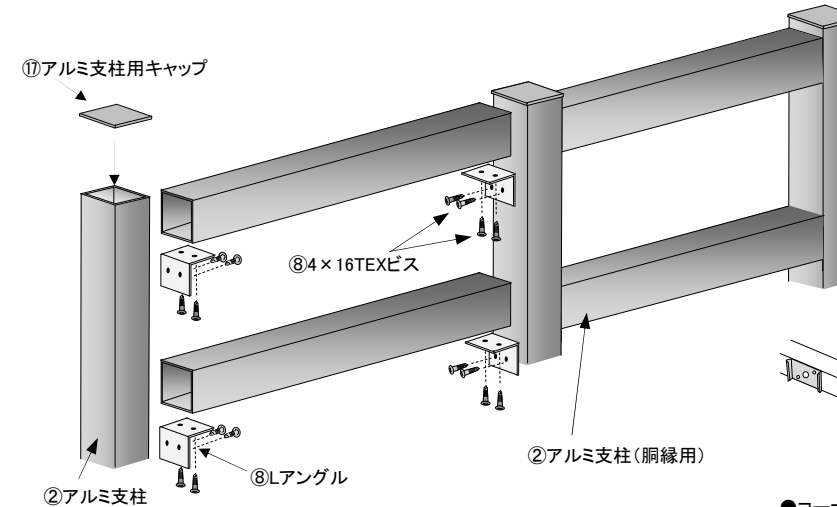
●カラー支柱の横胴縁の取り付け



●カラー支柱と胴縁はCジョイントで接続します。Cジョイントの腹の部分支柱側に4×16TEXビスにて2点留めし、胴縁用のカラー支柱を差し込み上下各1点同じく4×16TEXビスで留め固定します。

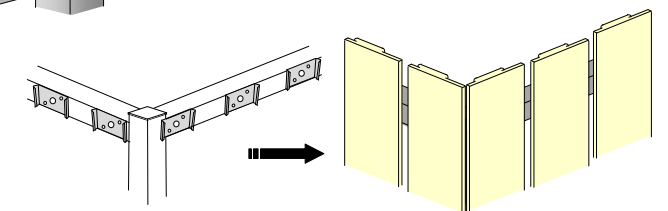
- カラー支柱の芯材の鋼管は溶融亜鉛メッキ処理しており錆びにくくなっていますが、切断時やビス打ちの際出た切粉が付着し錆びる場合があります。切断面はバリ取りを行ってください。また切粉が支柱や板の表面に付着しないようにしてください。
- 支柱のみ基礎に固定した場合、Cジョイントでは接続できなくなります。その場合は別途Lアングル等を別途用意して接続してください。
- 天端の胴縁は支柱キャップのかぶりに注意して上下の位置決めをしてください。
- カラーキャップは金属+プラスチック用の接着剤で固定してください。

●アルミ支柱の横胴縁の取り付け



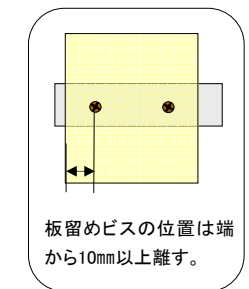
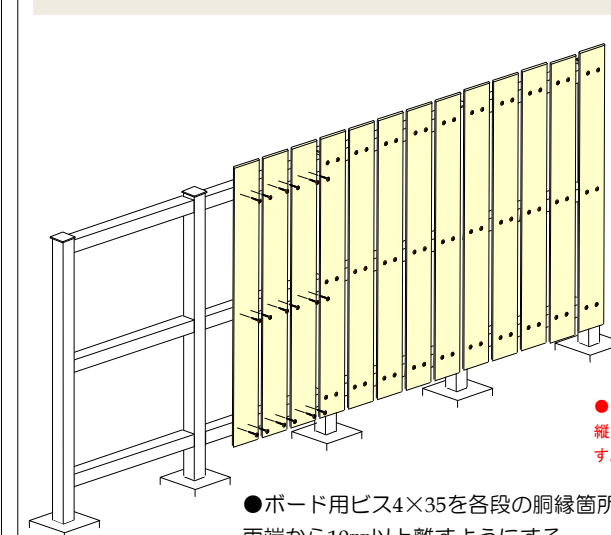
●アルミ支柱と胴縁はLアングルにて接続固定します。胴縁の下方より4×16TEXビスにて支柱側2点、胴縁側2点で留め固定します。

- アルミ支柱用キャップは専用のビスが付属しています。ドリルネジではないため、支柱小口から10mmの地点に下穴をあけてから取り付けてください。



●コーナーが90度でL字型の外張り場合はコーナー支柱とすることができます。(アルミ支柱/カラー支柱共通)

施工手順②板の取り付け ウッディRPボード縦桟タイプ(ビス留め仕様)



●ボード用ビス4×35を各段の胴縁箇所に2点留めする。ビス留め位置は板の両端から10mm以上離すようにする。

- 上下の胴縁間隔が800~900mm以内に収まるように位置や段数を決めてください。
- 上下の板の跳ね出しは200mm以内としてください。
- 板幅50mm以下のボードは一点留めも可。

ポイント *縦フェンスの性質上横延長は希望の寸法ピッタリにならない場合があります。板隙間で調整してください。

WOODY R・P 取扱説明書 縦フェンスタイプ

●施工前の準備と確認

※WoodyRPフェンス材は外気の温度変化により伸縮する素材です。

①製品特性について

当製品は再生原料を使用した発泡ポリスチレン樹脂製品です。アルミやその他の金属とは異なりプラスチック素材の為に硬さは柔らかい分類に属します。配送や移動、切断加工、ビス打ち作業など細心の注意をお願いします。軽いこすれは水拭きできれいになります。

②養生について

施工時に、フェンス材を日なたに放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工時における施工中の板の保管にはご注意ください。またフェンス材は高熱と溶剤に耐性がありません。**高温を発生させるものや溶剤(強酸・強アルカリ薬品類等、除光液)には不用意に接触させないでください。**

③梱包開封について

フェンス材を梱包から取り出す時の横からの引き抜きは厳禁です。板同士がこすれあい表面にキズを付けます。必ず**全開封取出し**を実行してください。

④色相について

当製品は再生原料を使用しています。そのために板本体は天然木と同様に色相の濃淡があります。施工時には板の配色バランスを見ながらの配置・設置をお願いします。

⑤フェンス板とパッチン金具のはめ合いについて

フェンス板は太陽光のあたる面側に熱膨張が発生し伸びる性質があります。外気温の変化によって側面から見ると板が反った状態が発生致しますが、外気温が下がると元に戻ります。パッチン金具とフェンス板の平行度が欠けるとはめ合いがキツくなり反りや変形の原因になります。金具は胴縁と平行に取り付け、傾かないようにしてください。製品の個体差によってははめ合いが固い場合がありますが、その際は金具溝を押し広げて金具の溝と本体はスライド可能な状態をつくるようにしてください。

⑥支柱ピッチと胴縁間隔について

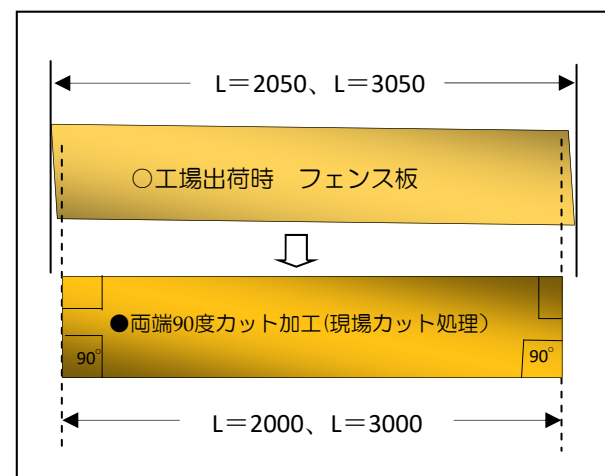
フェンスの支柱間隔(ピッチ)は、**芯々で1000^{mm}以内にて配置してください。**胴縁は「施工基準」を表にあるように段数を決めてください。また胴縁の上下の間隔が金具仕様のフェンスは1000mm、ボードのビス留め仕様は800mm以内に収まるように位置決めしてください。それ以上の間隔では反り・変形の原因になります。

⑦フェンス板のカットとカラー支柱のカットについて

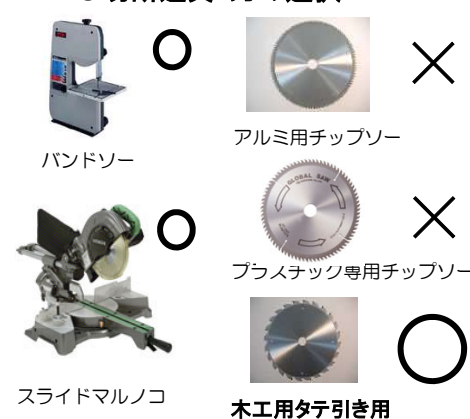
フェンス板の工場出荷時は下記のようにL=2000の場合2050^{mm}、L=3000の場合3050^{mm}と切りしろを付けた状態になっており、切断面の直角は出しておりません。**施工時に90度にカット**してご使用ください。下図

切断には**スライド丸のこ**かバンドソー(帯ノコ)が適しています。**丸刃は木工用の縦引きタイプの刃**で綺麗に切れます。フェンス板の小口処理は、溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができ表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。

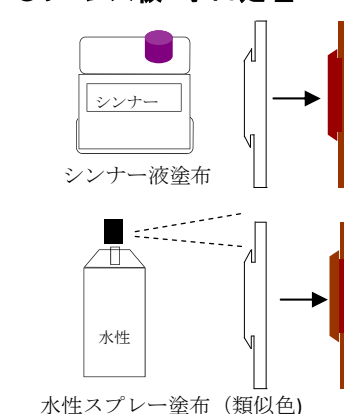
カラー支柱の切断は鉄用チップソーが適しています。ダイヤモンドカッター、切断砥石は適しません。



●切断道具・刃の選択



●フェンス板 小口処理



⑧各種施工基準について

●支柱サイズの基準

H2000以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角
H2000超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

●胴縁の段数

H1400以下：2段(天端部・下段部)
H1400超～H2000：3段(天端部・中間部・下段部)
H2000超：4段(※フェンス板長さがL2000以下の場合は3段)

●フェンス板の跳ね出しについて

フェンス板の反りや変形の原因となるため、上部と下部の板の跳ね出しは胴縁から200mm以内で施工してください。

●フェンスの高さと支柱の埋設深さ

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 ^{mm}
H1200～H2000	300～500 ^{mm}
H2000～H2500	500～600 ^{mm}

●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため50mm以上空けて施工してください。

⑨強風の吹く設置場所・積雪の多い設置場所での追加補強について

強風の設置場所・積雪の多い設置場所の追加補強については、以下の対策を施してください。①**控柱**を設置する。②**支柱ピッチ**を基準値(1,000mm以内)より短くする(例;500～800mm)。③**胴縁を増やす**。④**支柱サイズを太くする**(H2000以下は通常40角ですが、50～70角とする)。⑤**支柱の埋設**を基準値以上にする。⑥独立基礎を避ける。以上複数の項目を検討し対策してください。

⑩板の反り・変形、金具からの板はずれ、その他施工不具合を防ぐための注意点ポイント

①**支柱の垂直**を確保する、支柱が3本以上となる場合は**支柱位置の直線度**を出す。

②各段の**胴縁の間隔を均等に**し、1000mm以上とならないように配置する。

③**板1枚につき1本板留めビス**で下段の胴縁箇所に留める。

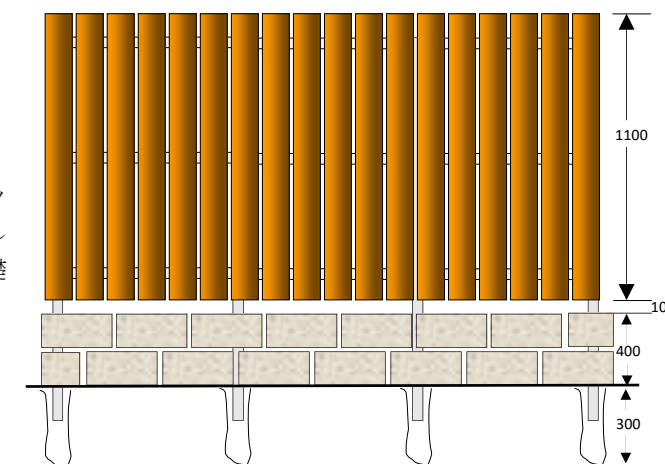
④カラー支柱の芯材は融融亜鉛メッキ鋼管で防錆処理してありますが、切断やビス留めの際に**でる切粉が錆びる可能性があります。**ビス留め時に出た切粉はきれいに取り除いてください。

●ブロック上への施工の場合

スタンダードタイプの空洞ブロック穴に支柱を埋め込み施工する場合、ブロック高さを含め、H1500以内の施工が基準です。

※図のようにアルミ支柱40角が使用できますが、柱ピッチが1m以内の間隔のために途中コア抜き作業が発生します。ブロック穴を利用した施工は、高さにより布基礎に根入れを施す必要があります。ご注意ください。

※ブロックの縦横に鉄筋が入り強度が保てる場合は、推奨埋設の深さとなります。



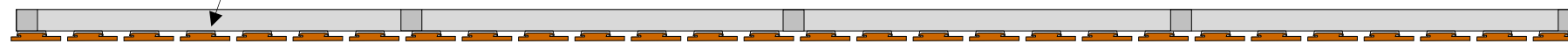
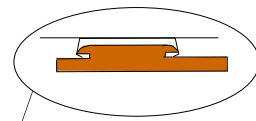
⑪その他

弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時(数量確認)と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできかねます。製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。

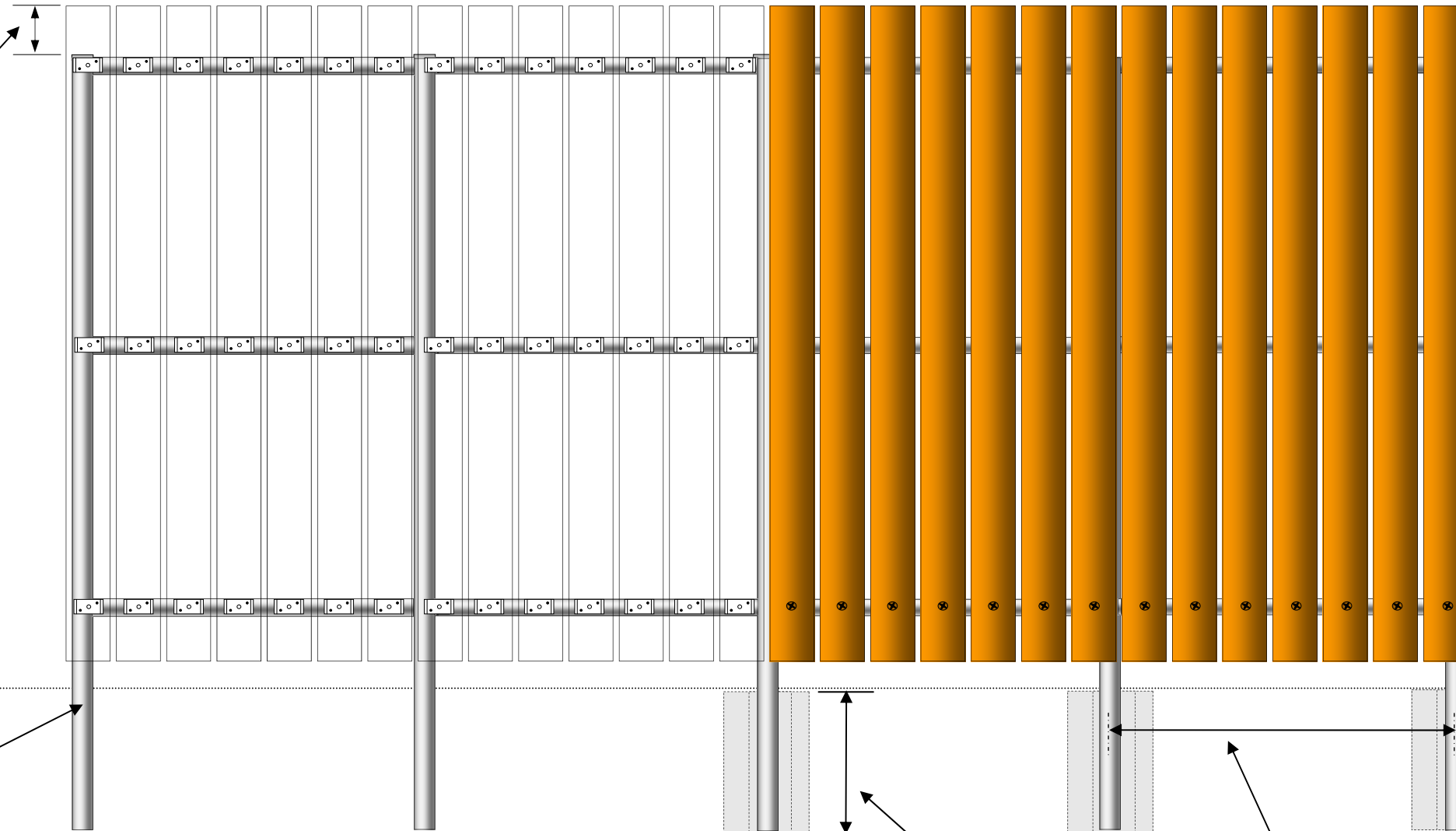
WOODY R・P フェンスの施工基準について

●参考例：W3905直線（板隙間15mm、28列）

●フェンス板の裏側の金具取付部は板の中心からずれています。あらかじめどちらに向けるか決め、すべて揃えるようにしてください。図は板裏が短い方が向かって左側です。



●反り・変形の原因となりますので胴縁からの板の跳ね出しは**200mm以内**としてください。



●板留めビスは**板1枚につき1本**、下段の胴縁箇所にはビス留めしてください。(カラーTEX4×40)

●GLから板までの空きは、フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

●支柱サイズの基準

高さ2000以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角
 高さ2000超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

●胴縁の段数

高さ1400以下：2段（天端部、下段部）
 高さ1400超～2000：3段（天端部、中間部、下段部）
 高さ2000超：4段 ※板長さがL2000以下の場合は3段
 ※上下の胴縁間隔が1000mm以内となるように中間胴縁の位置決めをしてください。

●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 ^{mm}
H1200超～H2000以下	300～500 ^{mm}
H2000超～H2500以下	500～600 ^{mm}

●支柱ピッチは芯々で**1,000mm以内**としてください。

◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

- ①**支柱の垂直**の確保、3本以上支柱が連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。
- ②あらかじめ板の向きを決めて、すべて揃えるようにする。
- ③穴あけ治具を使用する場合、板+金具と治具を仮合わせて、取り付けのスタート位置を決めてから下穴をあける。
- ④板はずれ防止のため**板1枚につき1本板留め**ビス。